

設立趣意書

N:PIVO（以下、「N ピボ」）は、「NGO セクターをピボットする」を合言葉に、日本の国際協力 NGO セクターに新たな発想・魅力・連携の場を創出し、イノベーションを生み出すことを目的に活動する NGO スタッフの集まりです。

日本の国際協力 NGO は、半世紀以上の年月を経て、全国を拠点に約 800 団体にまで増加し、その予算規模は、約 550 億円（2021 年度時点）にまで成長¹してきました。活動地は、世界各国に広がり、今日も、当事者や地域の人々、各地の市民社会組織と連携して、教育や職業訓練、貧困削減、保健・医療、環境、農業・林業・漁業、飢餓、災害、平和構築、人権確保等の活動を通じて、地域住民や子ども、女性、若者、困窮者、難民・国内避難民、先住民族、障がい者、LGBTQ+等の社会の中で周縁に置かれた人々の生活の向上に貢献しています。

一方、個々の組織運営に着目すると、近年、厳しい環境に置かれているのも事実です。一定の成長を遂げる団体がある中、比較的小規模の団体の多くが縮小傾向にあり、中規模の団体でも多くの団体の成長が鈍化²しています。様々なものごとの複雑さが増し、将来の予測が困難な VUCA³の時代において、経営環境が劇的に変化する中、既存の会員・寄付募集方法や過去に作られた事業収益モデル、以前は継続的に確保できていた助成金等の「過去の資産（レガシーシステム）」だけでは、「現在の経営」を成り立たせることができなくなっています⁴。また、経常収益 1 億円未満の小規模団体においては、助成金収益と事業収益合計が、過去 3 年間で約 3 割も減少しており、収益モデルの再考を迫られています。寄付を増やすために「投資」をしたくても、その手法は確立されておらず、寄付は、多くの団体にとって、経営を安定させる手段になり得ていません。

さらに、国際協力 NGO の事業運営や組織運営を担う人々、特に若い世代の参入も年々減少しています。特に、首都圏以外の地域では、周囲に同世代の NGO スタッフが少なく、業務を進める上でのちょっとした相談や交流の場がなく、孤立化しがちです。新型コ

¹ 令和 4 年度外務省 NGO 研究会「日本の国際協力 NGO の資金調達リデザイン化と財務内容の強化」（特定非営利活動法人関西 NGO 協議会）

² 同上。経常収益 10 億円以上の大規模団体の半分が順調に「拡大傾向」にある一方で、経常収益が 1,500 万円未満の比較的小規模の団体の約 6 割は縮小傾向にあり、1 億円を超える中規模団体の約 4 割は鈍化傾向にある。

³ Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を並べた言葉。

⁴ 同上。2000 年代以降に設立された経常収益 1,500 万円以上の団体（70 団体）では、「拡大傾向」が 47.1%（33 団体）と半数近くある一方で、1990 年代以前に設立された経常収益 1,500 万円以上の団体（91 団体）では、「拡大傾向」は 25.3%（23 団体）と、4 団体に 1 団体に留まっている。また拡大傾向の内、年平均成長率で 25%を超えた団体は、前者で 17 団体（拡大傾向の 52%）であった一方で、後者は、2 団体（拡大傾向の 9%）であった。

新型コロナウイルス感染症パンデミック以降、対面での集合型研修や学習会もオンラインへと移行し、若い世代が地域を超えて交流する機会が失われています。もちろん、オンライン会議でのつながりも一定程度の広がりがありますが、それも NGO 業界全体の動きではなく、個々の団体の取り組みにとどまっています。

「ピボット」は、バスケットボールにおいて、軸足を保ったまま、方向転換する用語として使われます。日本の国際協力 NGO も、これまで大切にしてきたミッションや価値観等を守りながらも、その運営方法や事業実施方法に関しては、大胆かつ柔軟に変化させることによって、より多くの価値を創造し、課題を解決していくことが求められています。私たちが目指していることは、国際協力 NGO の活動や運営を時代に合わせるのではなく、多くの道への挑戦や探究を通じ、また、特に若い世代間の交流を促進することで、国際協力 NGO を新たな時代を牽引する立場に引き上げることです。

ここに NGO セクターをピボットする運動体として、「N ピボ」を設立し、世界の課題解決を加速させ、平和で公正な社会を実現していきます。

参考：

2022 年 7 月 5 日に若手・中堅 NGO スタッフによる勉強・交流の場として「NGO の放課後（通称：N カゴ）」が設立され、「経営」「魅力向上」「アドボカシー」のグループによる勉強会が開催されてきました。約半年間の活動を振り返り、運営メンバーによる話し合いを行った結果、知識の習得を超えて、より国際協力 NGO セクターへイノベーションをもたらすことに主軸を移すべく、2023 年 4 月 1 日に「N ピボ（英語名：N:pivo）」へと発展、名称変更を行っています。

以上